

令和6年3月27日（水）

令和5年度 男女共同参画センター等の管理者等との情報交換会

主催：内閣府男女共同参画局総務課

# 東日本大震災後の 福島県男女共生センターの取組



福島県男女共生センター 事業課 副課長 岡部 貴敏

# 内 容

## 1 福島県男女共生センターについて

## 2 被災当時のセンターと当初の取組

- ・ 被災当時の状況（施設・職員）
- ・ ビッグパレットふくしま「女性専用スペース」の取組
- ・ 福島大学との連携講座
- ・ 女性と子どものための“放射線と健康”セミナー
- ・ かーちゃんのカプロジェクト～結い餅プロジェクト～

## 3 感じたことや課題、その後の対応

# 1 福島県男女共生センターについて

◆所在地：福島県二本松市

◆開館：平成13年1月18日  
(2001.1.18)

◆職員数：23名

◆設置者：福島県

◆管理運営団体（指定管理者）：  
公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構

※センターには**宿泊室**があり、復興対応・支援の場面で使用されました



## 2 被災当時のセンターと当初の取組①

**地震発生：平成23年3月11日（金） 14時46分18秒**

### 1 利用者の安全確認

利用者・職員ともに**被害なし**。職員は、安全確認後解散（帰宅）

※宿泊者は帰宅困難のため、延泊対応（満室）

### 2 施設の被災状況確認

**被害なし**（図書室の時計、調理室の皿が割れた程度）

※センター周辺地域は大きな被害がなく、近隣被災者の避難受け入れはなし

### 3 県内被災者の受け入れ

3/12 双葉厚生病院の患者・病院関係者 104名（～3/18）

3/13 双葉町福祉施設「せんだん」入居者等 6名（～3/17）

3/14 双葉町社会福祉協議会関係者 11名（～3/17）

### 4 被曝スクリーニング会場（ほぼ1か月）

3/13～4/10 **被曝スクリーニング会場**として1階入口・研修ホールを提供

※3/23までスクリーニングは24時間体制、センター職員は4/10まで3交代勤務



## 2 被災当時のセンターと当初の取組②

### 5 相談事業再開 4/1～

震災で困っている方（女性等）の相談を受けることがセンターの責務

### 6 施設内の放射能検査 4/5

→ 4/12 センター施設利用（貸出）再開 ※発災後から1か月後

### 7 ビッグパレットふくしま「女性専用スペース」運営開始 5/1～8/31

### 8 浪江町役場二本松事務所の受け入れ 5/23～翌年9月

➡ 5/23から研修ホールに役場機能を受け入れた



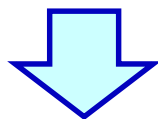
**放射線量測定の様子（平成23年4月5日）**  
4/12の開館に向けて、館内の放射線量測定を行いました。



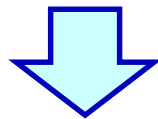


# 運営開始までの経緯

2011/4/17 県庁運営支援チームが**女性たちの声**をキャッチ、  
女性の専用スペースを確保  
「着替える場所がない」「男性の目が気になる・・・」



4/23 県庁運営支援チームの要請を受け、  
県男女共生センターで運営支援・体制づくり開始



5/1 郡山市内の**女性団体による運営開始**  
**郡山市婦人団体協議会**  
**女性の自立を応援する会（現・ウィメンズスペースふくしま）**  
**しんぐるまざあず・ふおーらむ・福島**

(2011/8 避難所閉所にともない、スペースも終了)

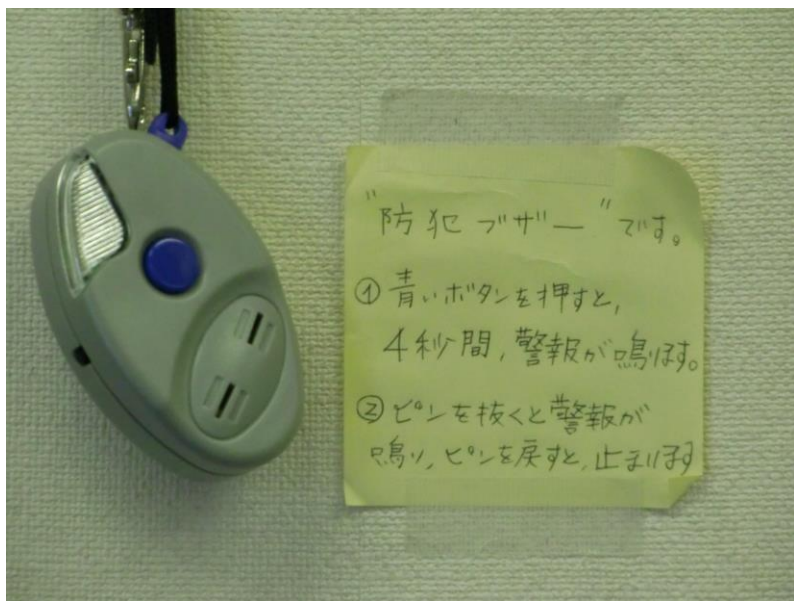


**利用者と支援者による手仕事の風景  
入口に飾る暖簾を作っています**



**スペースの中の様子。鏡、ソファなどは  
寄付でいただいたもの。**

# ボランティアから集めた防犯ブザーを配布





## トリンプのブラジャーへ 申込受け付けます！

女性の皆さんへ

女性の皆さんからの声に応え、「トリンプ」よりブラジャーを送っていただくことになりました。ご希望の方は、下記より受け付け・引き替えを行いますので、申込書に必要事項を記入してお申し込みください。



- ★ 受付期間：5/25 (水)～5/31 (火) 9時～16時  
スタッフがいけないときは、専用の箱に申込用紙をいれてください。
- ★ 引渡し期間：6/11 (土)～6/18 (土) 9時～16時
- ★ 受付・引渡し場所：ビッグパレットふくしま  
1階 Bホール 「女性専用スペース」



**引渡し方法**→引換え期間 (6/11 (土)～6/18 (土)、9時～16時) に直接「女性専用スペース」においてください。

※この申込用紙は女性専用スペースにもおいてあります。  
※お1人さま1枚とさせていただきます。デザイン等は選ぶことができませんのでご了承がいます。

-----  
切り取ってお申し込みください

| 申込用紙 |                  |      |    |    |    |
|------|------------------|------|----|----|----|
| 氏名   | サイズ<br>(記入例:C75) | 電話番号 | 居所 | 年齢 | 備考 |
|      |                  |      |    |    |    |
|      |                  |      |    |    |    |
|      |                  |      |    |    |    |

企業からの支援でひとり  
ひとりにあった下着を提供

## 【被災 約2か月後】

### 平成23年5～7月 福島大学との連携講座

- ・ 全11回の福島大学の授業で**避難した農業女性、避難所支援をした保健師、新潟県女性財団理事長**（大島 煦美子氏）などの方に登壇いただき、震災とジェンダー等をテーマとした講演会を実施  
➡当時、当センター千葉悦子館長は福島大学教授

## 【被災 約6か月後】

### 平成23年10月1日「女性と子どものための“放射線と健康”セミナー」開催

- ・ 放射線専門家を招いての講演会を実施  
➡セミナー終了後、**国際女性教育振興会 福島県支部**と共催で、参加者同士が不安や悩みを語り合い、交流するための**茶話会**も開催



## 【被災 約9か月後】

### 平成23年12月17日「かーちゃんのカプロジェクト～結い餅プロジェクト～」

- ・ 浪江町仮設住宅内で、つきたてのお餅や農産物・加工品の販売を行った。
- ➡センター職員は、広報や当日運営の補助として関わった。

### ※かーちゃんのカプロジェクト

- ・ 阿武隈高地の地域の**農業女性（かーちゃん）**たちが、ふるさとの食・伝統料理の伝承活動等をしながら、被災した人たち（と自分たち）を元気にしようと立ち上がったグループ



# 3 感じたことや課題、その後の対応

## (1) 職員の安全・安心確保と、センターの運営の両立

- ・放射能の不安、ガソリン不足による移動困難
- ・食糧確保が難しく、またセンターに備蓄がなかったため宿泊対応困難

## (2) ほかの避難所に「女性専用スペース」をつくれなかった

- ・避難所の状況により設置が難しいところもある（あった）。
  - ・そもそも職員数が少なく、多数の避難所を回れない。
- ※回れたとしても混乱を助長するだけかもしれない。

## (3) 「支援者への支援」視点の重要性

- ・ **被災地の支援者は自分も被災している。**

※自治体・社協職員は家族が心配でも帰れずに休みなく対応している。

→福島に支援で来てくれた全国のセンター皆さん、全国女性会館協議会理事や事務局の皆さんからの心配・励まし・ねぎらいなどの温かい言葉がどれだけ気持ちを楽しましたか…。

## 普段の取組がいかに大事なのかを思い知った

- **避難所対応職員の人権・男女共同参画理解度を高める**  
→平成24年から行政・社協職員等を対象とした、**ジェンダー・多様性視点の研修**を実施。
- **ビッグパレットふくしまでの女性専用スペース運営は、郡山市の女性団体、センターと連携実績があったからできた**  
→ほかのまちの避難所ではできたかどうか…。  
日頃から、多くの団体・機関とつながることが重要
- **ほかには、有事の際の職員確保（正規・プロパー職員が一定数いないとどうにもならない）や働き方の確認、食糧備蓄 など**